

かわむら **こども** クリニック NEWS

Volume 25 No 6

287号

平成29年 6月 9日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

高松・堺連続出張

院長

5月13日(土)は休診、20日(土)は午後休診と2週連続お休みをいただき、ありがとうございました。お陰様で日本プライマリ・ケア(PC)連合学会(高松市)と指定都市学校保健協議会(堺市)に参加することができました。

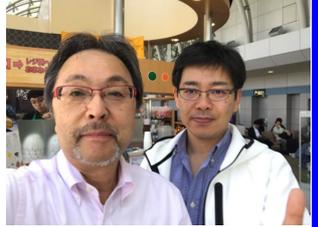


4月号にも「最近記事がないとお詫びの印として旅行記を書くのが定番になりかけています。」と書きましたが、今回も同じことになりそうです。

PC連合学会では、シンポジウム「子育て支援を地域で考える」のパネリストを担当しました。小児科医が小児科以外の学会に招聘されることは名誉なこと、滅多にあることではありません。それほど診療科の壁というものは厚いのです。呼ばれたのは嬉しいことなのですが、残念なことが一つありました。それは開催地です。学会に参加する場合には、参加が目的の場合と講演などの役割以外に、遠方に行くという別な楽しみがあります。行ったことがない場所を訪れること、地元の美味しいものを食することです。ところが高松は、昨年日本外来小児科学会で2回も訪れ、金毘羅さん、栗林公園も、そして讃岐うどんも食べてきました。(CLINIC NEWS2016年8月号)

それでは少し真面目に、学会の話をしましょう。講演は「小児科医における子育て支援活動の取り組み～情報発信と地域連携～」で、開業以来「お母さんの不安・心配の解消」を理念とした、子育て支援活動についての紹介がメインでした。それに加えて「子ども支援」の活動、地域との連携について述べました。子育て支援は、子育てをしている母親・父親を支援することに重点が置かれてきました。もちろんそれも重要ですが、子ども支援という直接子どもに対しての活動も注目されるようになりました。ちょっと意味が通じないかもしれないので、具体的な内容を紹介します。理念である「お母さんの不安・心配の解消」を基にした、CLINIC NEWS、HP、医療相談、お母さんクラブ、患者さん専用アドレス、Facebook ページ等の活動は、保護者に対する直接的な子育て支援です。仙台

小児科医会の会長として取り組んだ、予防接種費用助成獲得、乳児虐待死亡例検証から生まれた対策、むし歯予防のための3歳児カリエスフリー-85プロジェクトは、行政と連携した間接的な子ども・子育て支援です。また10年目を迎える小学4年生に対する『命の大切さ』を伝える性教育』は、地域と連携した子どもへの直接的な支援です。活動を通して学んだことを「子ども・子育て支援の極意」とまとめ、「行政、企業、医療従事者、民間団体やNPOの有機的連携の重要性」でめました。



翌週は堺市で開催された指定都市学校保健協議会に医師会理事として参加しました。土曜日午後から学校医研修会に参加し、もちろん一番最初に質問に立ちました。終了後は仙台から参加した歯科医師会、薬剤師会、そして市教委の懇親会が開かれ、夜遅くまで盛り上がりしました。(写真は仙台歯科医師会会長と)

翌日は協議会本番でしたが、医師会長の許可をもらい仁徳天皇陵を見に、堺市役所の最上階からよく見ると聞き22階まで登りましたが、目の前にあるのはこんもりした丘だけ。歴史の勉強だけはして帰ろうと堺市博物館へ。途中交通規制に会い、何かと。全くの偶然でTOUR OF JAPAN SAKAIに遭遇、初めて見るレースはすごい迫力。観戦で人が溢れるコースを歩いていると池と鳥居がありました。立て札に宮内庁と書いてあり、全く偶然仁徳天皇陵にたどり着きました。博物館に入ると、ラッキーにも映画「百舌鳥・古市古墳群～未来へ伝える人類の遺産」の開始時間で、古墳の歴史がしっかりと学びました。炎天下を歩いたご褒美と満足して帰ってきました。

ぎりぎり会場に戻り昼食をとる暇なしに、第1分科会「健康教育」に直行、自販機もなく最後まで水だけで我慢しました。「健康教育」分科会では誰も質問の気配なく、司会者が困った顔をしていたので仕方なく質問に立ちました。講演の内容と微妙に違う仙台市医師会の「こども医学講座」の紹介。場違いな質問だったかと反省の気持ちでいた矢先、終了後司会者の先生が歩みより「質問ありがとうございました。おかげで助かりました」と挨拶をしてくれました。でしゃばりすぎたとの反省も、困っている人を助ければ何かいいことがあるということを実感した協議会でした。



学会はもちろんですが、歴史に触れることができた出張でした。休診をいただいて何度も出張できるのも、患者さんのご理解とご協力のお陰です。学会で得たものを、これからの診療に生かそうと思います。ありがとうございました。

6月のお知らせ

- ・臨時休診
9日(金)午後～10日(土)
小児科医会総会フォーラム(富山)
ご理解ご協力をお願いします。
- ・東北大学医学部学生実習
23日(金)
ご迷惑をおかけするかもしれませんが、よろしくをお願いします。
- ・栄養育児相談
7、21日(水)
13:30～

『がんばろう！熊本 がんばろう！日本』
“みんなでやれば、大きな力に”

読者の広場

先月は14通のメールをいただきました。医療に関するメールが多かったのですが、青葉区の〇〇さんからの予防接種に関する相談です。「ご無沙汰しております。お陰様で〇〇郎も〇〇香も元気そのもので、なかなかこちらにお世話になる機会がなく済んでおります。さて、今夏は〇〇郎がアメリカのキャンプに参加することになり、過去に受けた予防接種の情報などを詳しく記載しているところです。そこで、以下のワクチンの接種の状況の有無について聞かれたのですが、母子手帳を見ても受けた記録がなさそうです。こちらは、先生のところでも接種可能なものでしょうか？ お電話を差し上げようと思ったのですが、二種類あり、名前も長いので、迷った結果、メールでご質問させていただきました。Meningococcal meningitis (MCV4：書類上髄膜炎菌ワクチンと記載)、Meningococcal B (髄膜炎菌Bと記載)お忙しいところを恐れ入りますが、どうぞよろしくお願いいたします！」



皆さんは「髄膜炎菌ワクチン」って聞いたことがありますか。ケースは少ないのですが、海外では定期接種となっているところもあります。そこで、次のように返信し、その後やり取りが続きました。

「メールありがとう。成長すると病気をしなくなり、それはいいことです。顔を見れないことは、健康の証です。さて、ワクチンの件です。どちらも髄膜炎菌による髄膜炎を予防するワクチンです。MCV4は結合型ワクチンと呼ばれるもので、4種類の血清型(A,C,Y,W)に合わせたものです。Bexsero(商品名)はB血清型のワクチンです。日本では任意接種で普通は接種されていません。特別流行地に行く場合は、渡航ワクチンとして接種する場合があります。通常は渡米するときに必ず必要なワクチンでもありません。未接種と記載して提出しても、問題はないでしょう。ということです。」

「お忙しい中、早速のお返事をありがとうございます！ メールニュースは定期的に拝読しておりますので、先生の顔を見られなくても、勝手に近くに存在を感じていました。さて、いつもながら、的確なアドバイスをありがとうございます。おっしゃるとおり、未接種と記載して提出しようかなとも思う反面、先生もご存じのとおり、私は任意接種のワクチンもなるべく打ちたいタイプなので、せつかくこのワクチンの存在を知った以上、特に問題のない限り接種させたい気持ちもあります。先生のところでも接種して頂けるのでしょうか？ やはり普通は接種されないということであれば、入荷されないのでしょうか？ ほかの病院を探してまで接種させようとは思わないのですが、もしも先生のところで接種できるなら接種しようということですが、いかがでしょうか？ ちなみに、血液型も記載する必要があり、さすがにここを空欄というわけにもいかないかと思っておりますので、近日中にクリニックにお伺いしようと思っております。どうぞよろしくお願いいたします！」

「髄膜炎菌髄膜炎ワクチンとして、2015年に「メナクトラ」(4価)が国内承認されています。米国では11～12歳で接種しますが、ワクチンは2歳以上なら接種可能です。当院では接種したことはありませんが、取り寄せれば接種可能です。ただし接種料金は高めで、接種している医療機関を調べたところ2万数千円程度がほとんどです。髄膜炎菌髄膜炎に関しては、サノフィ(ワクチンメーカー：<http://www.imd-vaccine.jp/index.html>)を参考にしてください。取り寄せまで時間がかかるかもしれません。こちらは念のため確認しておきます。ということで、検討してください。」

「有用な情報をありがとうございます！ 読めば読むほど髄膜炎のリスクに恐怖を覚えます。ワクチンで予防できるなら是非とも予防したいところです。さて、頂いたサノフィの情報によりますと、以下の二つの情報がありました。

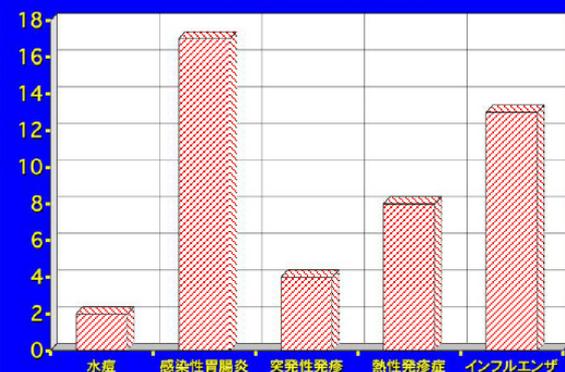
①日本脳炎ワクチンの標準的な定期接種対象年齢の3～5歳(追加接種9歳)頃に合わせて髄膜炎菌ワクチンの接種を検討しましょう。また、思春期でワクチンを打つタイミングを述べているお子さんの場合は、接種を忘れないように、DT(2種混合)ワクチンを接種する11歳頃※に合わせて髄膜炎菌ワクチンの接種を検討しましょう。

②アメリカの例を挙げると、感染リスクが高いとされる10歳代後半から20歳代での感染を防ぐため、11～12歳に1回目の接種をし、さらに16歳で2回目の接種をすることが推奨されています。

これらを総合すると、9歳の今1回目の接種をし、15歳ごろに2回目の接種をすればいいのかな、と素人的には考えましたが、何か違和感お持ちでしょうか？ 特になければ、確かに料金は高いですが、保険と考えると、先生の患者第1号として接種させていただきたいと思っておりますので、是非お取り寄せをお願いいたします！引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。」

「料金は高いですが保険と考えると、先生の患者第1号として接種」、なんと嬉しい表現でしょう。自分で言うものではありませんが、これこそ医師と患者さんの素晴らしい関係です。もう一つ、せつかく有倉さんがメールしてくれたので、皆さんも髄膜炎菌ワクチンのことも知っておきましょう。

5月の感染症の集計



特別な病気の流行はありません。一時減少したインフルエンザですが、B型が再流行その収束。感染性胃腸炎も多めです。ある保育園では6/24人欠席し、パラインフルエンザウイルスが検出されました。最近アデノウイルスの集団発生。情報はFacebookページで。

Mail News, Facebook の紹介

Mail News は、580人を越えるお母さんが登録。右のQRコードから登録できます。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。



MailNews

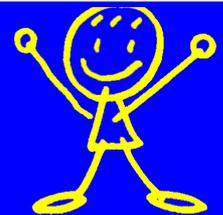
Facebook

最新情報はFBを見てください。

Mail News が届かない場合は kodomo-clinic.or.jp をドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。

編集後記

仕事仕事に追われて、忙しさだけが自慢です。もちろん、忙しさが自慢にならないことは知っていますが、日常生活が忙しすぎると、出張は非日常の世界になります。非日常の世界があるからこそ、日常の世界に戻れるかもしれません。忙しい日常でも、仕事なので乗り切らなければなりません。そのPowerを与えてくれるのが、お母さんと子どもの笑顔です。



K's clinic

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』
『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。！！